

2020年(令和2年)7月30日(木曜日)

東京新聞

ネパールの衛生環境改善に取り組む三島市のNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」は二十九日、同国での新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために集めたマスクを現地に送る贈呈式を、オンラインで実施した。

三島市とカトマンズ市をインターネットでつなぎ、三島側は、GW三島の渡辺豊博専務理事とネパール日本友好協会(山梨県大月市)の石岡博実会長が参加。二人が「子どもたちの命が救われるように」との思いを伝えると、現地側は「ネパールはマスクが手に入らないので、とても助かる」と感謝していた。

世界保健機関(WHO)によると、ネパールのコロナ感染者数は二十八日現在、一万八千七百五十二人。GW三島などは、現地の子どもたち向けのマスクの寄付を六月中旬から呼び掛けてきた。これまでに全国から、手作りを含む六千四百七十四枚のマスクのほか、フェースシ

マスク、使ってください

全国からの6474枚、ネパールへ

三島のNPO オンライン贈呈式



全国から寄付されたマスクを画面越しに紹介する渡辺豊博専務理事(左)と石岡博実会長(右)＝三島市芝本町のグラウンドワーク三島事務局で

ルドやせつけんなどが寄せられた。八月中旬に、ネパールの首都カトマンズ市に届ける予定。

GW三島は今後もマスクを募り、支援を続ける。寄付は、〒411-0857三島市芝本町六の二のGW三島事務局。持参も可。問い合わせはGW三島＝電055(983)0136＝へ。(杉原雄介)